

こんな本があります

江戸の名所を見る本

江戸時代に書かれた渋谷に関連する主な資料

地域資料

分類	資料名	編著作者	出版者	出版年
S13	江戸名所図会 渋谷関連抜粋	渋谷区教育委員会 社会教育課/編	渋谷区教育委員会	1987
S13	新編武蔵風土記稿(大日本地誌体系1)		雄山閣	1963
S13	町方書上 5(千駄ヶ谷・渋谷を含む)	江戸東京博物館友の 会/翻刻	江戸東京博物館友の 会	2014
S17	澁谷宮益金王邊圖		近吾堂	1851
S17	東都青山絵図(江戸切絵図)		岩橋美術	2006
S17	江戸切絵図「東都青山絵図」嘉永6年 尾張屋版		渋谷区教育委員会	2003
S17	江戸切絵図「千駄ヶ谷 鮫ヶ橋 四ツ谷絵 図」嘉永3年 尾張屋版		渋谷区教育委員会	1994
S17	甲州道中分間延絵図 第1巻 内藤新宿 下高井土 上高井土 国領・・・		東京美術	1978
S12	図説渋谷区史 [図版を多数収録しています]		渋谷区	2003

関連一般図書

資料名	編著作者	出版者	出版年
江戸名所図会 1~4(有朋堂文庫)	斎藤 幸雄/著	有朋堂書店	1927
江戸名所図会 1~6(ちくま学芸文庫)	斎藤 幸雄/ほか著	筑摩書房	1996
江戸名所図会を読む	川田 寿/著	東京堂出版	1990
絵本江戸土産	安藤 広重/著	桜楓社	1969
浮世絵大系 13(別巻1) 富岳三十六景	座右宝刊行会/編	集英社	1976
葛飾北斎富嶽三十六景	葛飾 北斎/[画]	太田記念美術館	2017
群書類従	塙 保己一/編	続群書類従完成会	

しぶや、あの日 あんなことそして こんな本

— 渋谷区地域資料通信 11 —

2022年8月31日

編集/発行 渋谷区立中央図書館 (株)図書館流通センター

渋谷区神宮前 1-4-1 3403-2591

図書館ホームページ>しぶやのページ

https://www.lib.city.shibuya.tokyo.jp/?page_id=209

しぶや あの日 あんなことそして こんな本

渋谷区地域資料通信 11

コロナ禍で、なかなか思うようには出かけられないこの頃ですが、やはり旅行やちょっとしたお出かけは気持ちをリフレッシュして明日のやる気を生み出す源になると思います。それは江戸時代も同じだったようで、遠くお伊勢さんまでとは言わないまでも、江戸近郊の行楽地には盛んに足を運んでいたようです。

江戸時代は木版印刷の最盛期にあたり、錦絵や絵図、読み本などが数多く出版さ

れました。中でも『群書類従』

は塙保己一

の編んだ日本の古典の一大叢書であり、その版木は重要文化財に指定され、渋谷区内の塙保己一史料館に保管されています。そうした出版物の中には江戸市内や近郊の名所を紹介している浮世絵や本もあり、

当時は郊外地であった渋谷区域を案内しているものもあります。錦絵では北斎の「富嶽三十六景」や広重の「江戸名所図会」にも描かれていますし、

遊山に出かける手引書として当時の旅行ガイドブックともいえる『江戸名所図会』にも現在に残る社寺とともに「広尾原」や「新日暮里」などの行楽地が取り上げられています。この『江戸名所図会』は江戸府内とその近郊の

神社・仏閣・名所・旧跡・橋などを多数の絵とともに解説した名所地誌で、江戸後期に斎藤長秋・莞斎・月峯の父子三代が実地踏査を重ね、

30年余りをかけて編まれ刊行されたもので、画を長谷川雪旦が描いています。また、江戸末期には初代広重と二代目になる『絵本江戸土産』でも「渋谷金王桜」や代々木の名のもとになった「代々木村の代々木」などが紹介されています。

遠出をできない折には、区内の社寺や鳩森八幡の富士塚、季節には一重と八重が混在して咲く金王八幡の金王桜などの江戸名所を訪ねてみるのはいかがでしょうか。

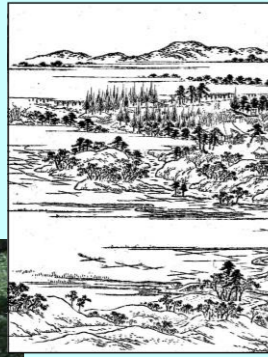


代々木村の代々木 『絵本江戸土産』

『江戸名所図会』に用る渋谷

代々木八幡宮

代々木八幡宮は鎌倉時代の建暦2年(1212)に元八幡の地に小さな祠を建て、鶴岡八幡宮を勧請したのが創始とされ、江戸時代の寛文11年(1671)にこの地に移転してきました。



江戸名所図会

宮のある標高32mの台地上には縄文時代から人々が暮らし、境内には昭和25年(1950)に発掘調査された竪穴式住居が復元され、区の史跡に指定されています。また、縁起絵馬などの奉納されている絵馬は区の指定有形民俗文化財になっています。

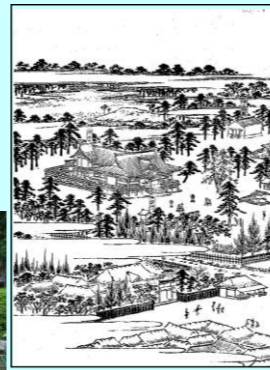
(代々木五丁目1番)

千駄ヶ谷八幡宮(富士塚)

江戸時代盛んになった富士信仰に伴い各地に富士塚が作られ、富士山登拝に代わるものとして大変な人気を呼びました。中央に描かれている鳩森八幡神社の富士塚もその一つで、都内に現存するものでは一番古く、東京都の有形民俗文化財に指定されています。



富士塚登山口

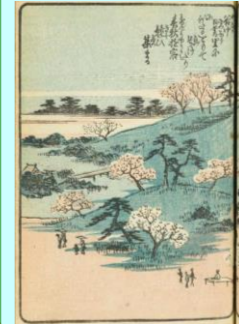


江戸名所図会

(千駄ヶ谷一丁目1番)

仙寿院庭中(新日暮里)

仙寿院のあたりは谷中の日暮里に似て素晴らしい眺めであったため新日暮里と呼ばれていたとあります。



絵本江戸土産

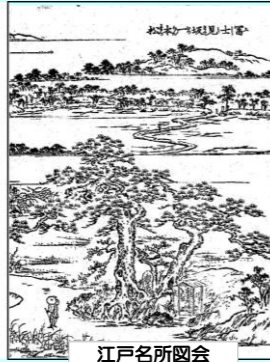
江戸名所図会

(千駄ヶ谷二丁目24番)

富士見坂一本松

富士見坂とは現在の宮益坂のことで、宮益坂の名は左手奥に見える鳥居の御嶽神社の神徳から名付けられ、鳥居の横に「ふじみ坂」とあります。その下の「ふじみ橋」から続くのが道玄坂となっています。大きく描かれた一本松の場所が坂の下が道玄坂の上なのか、絵からは定かできません。

(渋谷二丁目・道玄坂二丁目)

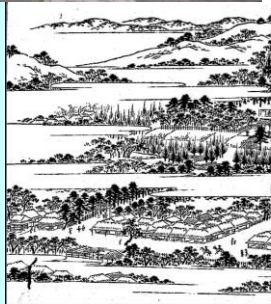


江戸名所図会

金王八幡金王桜

金王桜は一重と八重が混在して咲く桜で『江戸砂子』などにも記され、江戸時代から広く知られていました。『図会』『土産』に描かれているほか、広重の『江戸名所図会』の中には錦絵が収められています。区の指定天然記念物になっています。また、社殿及び門は区の指定有形文化財です。

(渋谷三丁目5番)



江戸名所図会

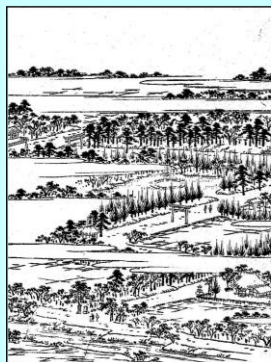


絵本江戸土産

渋谷氷川明神社

氷川神社の創始は非常に古く、縁起によると、景行天皇の皇子日本武尊東征のときといわれます。絵の中ほどの鳥居の上に描かれている土俵は江戸時代から催されていた「金王相撲」の土俵です。「金王相撲」は近郷近在はもちろん、江戸表からも見物人が数多く集まり、将軍家でさえ「渋谷の相撲なら見に行こう」といわれたと伝えています。所蔵する「紙本著色氷川大明神并宝泉寺縁起」は区の指定有形文化財です。

(東二丁目5番)



江戸名所図会

広尾水車

最盛期には区内に40ヶ所あまりもあった水車のひとつ下渋谷村佐兵衛水車で、玉川金三郎が継いで玉川水車ともいわれていました。将軍吉宗が狩り途中、この玉川家に寄りて休息したといわれています。

(広尾五丁目23番)



江戸名所図会



熊野社

熊野神社は紀州徳川家の屋敷鎮守の神が村民の願いによって在方の鎮守として移されたものといわれています。



絵本江戸土産



江戸名所図会

(神宮前二丁目2番)

竜岩寺庭中(笠松)

中央に描かれている「笠松」は、葛飾北斎の『富嶽三十六景』では富士を背景にした1枚になっています。



絵本江戸土産



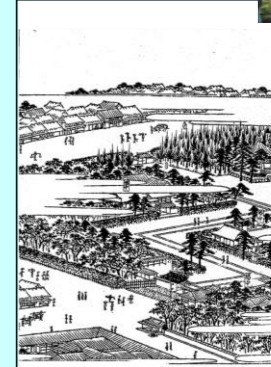
江戸名所図会

(神宮前二丁目3番)

広尾祥雲寺

筑前福岡藩主黒田忠之は元和9年(1623)に父長政の冥福を祈るために、赤坂溜池の邸内に興雲寺を建立しました。後に寺号を祥雲寺と改め、寛文8年(1668)の火災に罹り、現在の場所に移ってきました。墓地には初代藩主長政の墓があり渋谷区の指定史跡になっています。

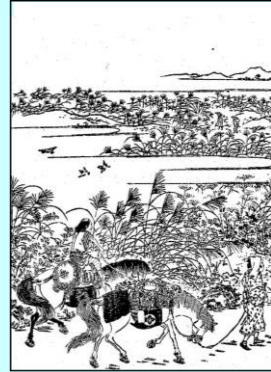
(広尾五丁目1番)



江戸名所図会

広尾原

恵比寿二丁目の広尾病院・慶應幼稚舎あたり一帯を広尾原といい、将軍家のお狩場として八代将軍吉宗もしくは遊獵に訪れました。「土筆の原」とも呼ばれ、草摘み、虫狩り、月見など江戸庶民の行楽地として親しまれました。描かれているのはそうした人々であろうか。



江戸名所図会



富嶽三十六景



祥雲寺山門